

分子細胞生物学研究所

I	研究水準	.....	研究 22-2
II	質の向上度	.....	研究 22-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実績状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの査読英語論文発表数は平均 2.7 件であり、全論文 140 件のうち 1 割強に相当する 16 件がインパクトファクター10 以上の特に評価の高い学術誌へ発表されている。特に、6 件の研究成果については新聞報道がされており、社会的なインパクトも大きい。また、国際会議における口頭発表数も過去 4 年間で上昇傾向にある。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の採択数（採択金額）は 62 件（約 7 億 4,000 万円）で、採択率は、一部の研究種目を除き全国平均を上回り、平均約 60%である。平成 19 年度に受け入れている大型プロジェクトは 5 件であり、21 世紀 COE プログラムやグローバル COE プログラムにも計 14 名が参加している。他機関や民間との共同研究や受託研究においても、約 1 億 9,000 万円を受け入れていることなどは、優れた成果である。

特に、上記のとおり、積極的な研究資金の獲得を支えとして展開された研究が傑出した実績として結実しているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、分子細胞生物学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、分子細胞生物学研究所が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、染色体の均等分裂と還元分裂の違いを作る分子機構に関する研究、イオンポンプの作動原理の解明、ダイオキシン受容体の研究、骨粗鬆症の発症機序の研究があり、国際的に高い評価を受けており、卓越した水準にあることは、特筆すべきである。社会、経済、文化面では、社会還元が進行中の研究成果がいくつか挙げられている。また、過去 4 年間の研究成果によって、国際学会賞 2 件、国内学会賞 13 件、紫綬褒章 1 件、日本学士院学術奨励賞 1 件、日本学術振興会賞 1 件を受賞しているほか、米国アカデミー外国人会員の選出 1 件があることなどは、優れた成果である。

特に、上記のとおり、卓越した成果を上げていること等からも分かるとおり、国際的に高く評価できる業績が多く出されているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、分子細胞生物学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、分子細胞生物学研究所が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。